

調査研究—ウミガメ・海洋・河川調査—

フグ目魚類の飼育知見の蓄積

フグ目魚類は、世界中で約430種以上生息しているといわれています。海響館では常時100種類以上の展示をしています。2013(平成25)年4月現在までの飼育種は193種にのほります。



海洋調査

海響館では、下関の海にすむ生き物を多く飼育展示していますが、それはほんの一部でしかありません。どのような生き物が、どういった環境にすんでいるのかは、現地におもむき飼育スタッフの目で直接確かめることが大切です。

河川調査

2005(平成17)年度、2006(平成18)年度に、下関市を流れる木屋川の魚類及び十脚甲殻類の生息状況を把握し、河川環境保全、そしてその結果を水槽展示に活かすことを目的とし、河川調査を実施しました。



海響館の調査研究例

海響館はいろいろな機関と連携し、調査研究に取り組んでいます。

テトラオドン属および関連淡水・汽水産フグ科魚類の分子系統関係について

連携機関 東京大学大学院農学生命科学研究科
水圏生物工学研究室

スーパートラフグの開発

連携機関 東京大学大学院農学生命科学研究科/水圏生物工学研究室
東京大学フグ研究グループ下関実証試験室

クサフグの産卵行動の調節機構に関する研究

連携機関 新潟大学理学部附属臨海実験所

トラフグ属魚類の雑種解析

連携機関 水産大学校生物生産学科学資源増殖学講座

調査研究—生物の収集—

《乗船採集》

定置網や底びき網、カゴ漁など様々な漁船に乗り込み採集を行います。特にタチウオや大型クラゲ、深海生物の採集には乗船することが必須となります。



調査研究—ウミガメ調査・保護—

ウミガメの調査研究・保護

ウミガメの産卵巣の保護を目的として、海響館では、2005(平成17)年から下関市と北九州市を中心に、下関周辺海域におけるウミガメに関する漂着、混獲、産卵、ふ化などの情報を収集しています。実際下関周辺海域でどれほどウミガメが認知されているかを探るため、漁業関係者の方々に「ウミガメに関するアンケート」を実施し、目撃情報や漂着情報および産卵情報を集めるところから始めました。また、漁業関係者や地元住民の方々にウミガメに対する正確な知識を持っていただき、情報提供などの協力を得るために、下関周辺海域で主に見られる3種のウミガメ(アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ)の見分け方を掲載した情報提供依頼ポスターおよび下敷きを作製し、館内への掲示はもちろん、近隣の漁業協同組合にも掲示していただきました。



《産卵巣の調査》

卵を産んだ形跡がある場合は、産卵巣を掘り起こして卵の有無を確認します。確認後はそっと埋め戻し、波の浸食などの問題がなければ自然ふ化を待ちます。約2カ月経ち、ふ化した仔ガメたちが海に戻った後に再び産卵巣を掘り起こしふ化率の調査を行います。

《漂着及び混獲個体の調査》

漂着や混獲(誤って網などに掛かった個体)されたウミガメからも貴重な情報を得ることができます。外部形態の計測や解剖を行いデータの記録をします。また生存している場合は標識タグやマイクロチップを取り付け放流し、回遊経路の解明に役立ちます。



調査研究—スナメリ・その他の鯨類の調査・保護—

スナメリの調査・保護

下関市周辺の海域に小型の鯨類である「スナメリ」が生息していることは以前から知られていましたが、調査や研究に関しては断片的な報告のみであり、情報についても集約されていませんでした。そこで海響館では、山口県及び福岡県北九州市周辺海域にてスナメリを中心とした鯨類の調査研究と啓蒙活動を積極的に行ってきました。一方、1999(平成11)年に結成した海響館ホエールボランティアにおいても鯨類に関する啓発活動やスナメリの調査活動等を行っています。



《スナメリの保護》

海響館では2013(平成25)年4月1日現在5頭のスナメリを飼育していますが、すべて漁業関係者等からの速やかな情報提供により緊急対応ができた救護された個体です。海響館の取り組みにより野生動物の命が守られた例となりました。



《ストラディング※調査の結果》

山口県及び福岡県北九州市周辺海域におけるストラディング調査の結果によると、1998(平成10)年5月より2012(平成24)年12月31日までの14年8か月で276件、307頭の記録があり、その内訳はヒゲクジラ亜目1種3件3頭、ハクジラ亜目11種267件298頭、種不明鯨類6件6頭です。その中でも一番多く発生している種がスナメリで、246件248頭と全体の約90%にもなっています。ほとんどの事例が死亡した状態での発見ですが、スナメリでは12例14頭の生存個体での発見があり、そのうち10頭を救護し、海響館に収容しました。その後無事に回復した5頭について、研究を行うことを目的として水産庁の許可を得て飼育展示しています(スナメリは水産資源保護法の対象動物となっています)。

《フィールド調査》

下関市周辺の海域において野生のスナメリのフィールド調査も積極的に行っています。2006(平成18)年度から2009(平成21)年度まで、周防灘および響灘に設定した海域にて船舶による目視調査を行いました。



野生のスナメリ

その他の鯨類の調査・保護

鯨類の科学的な情報は、一部の種を除けば非常に限られており、わからないことがほとんどです。そのためストラディングで得られる情報はすべて貴重なデータとなっており、日本各地で発生したストラディング個体の研究から、年齢や繁殖サイクル、食性、成長の仕方、病気の有無、新種の発見など、多岐にわたる成果が報告されています。

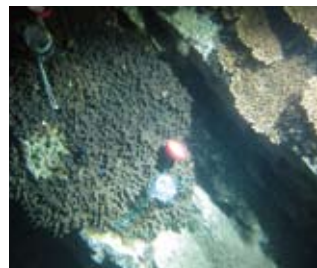
※ストラディングとは？

座礁(生存した状態で海岸に打ちあがる)、混獲(漁網に絡まる)、迷入(本来の生息場所以外の場所に迷い込む)、海岸漂着(死亡した状態で海岸に漂着する)、海上漂流(死亡した状態で海上を漂流している)などの総称として用いています。



《潜水採集》

漁業では獲れない小さな生き物や海藻類、サンゴのバンドル※採集を行います。環境保護のためサンゴを直接獲るのではなく、放出されたバンドルを確保し海響館で育成しています。



※バンドルとは？

卵と精子がカプセル状になったもののことです。